岡田代表の人物評は

問　ＮＰＯ法人「大雪りばぁねっと。」の代表である岡田氏について、どんな人物と思ったか、また信頼していたとすれば、どうしてか、不信感を持ったことはなかったか。

沼崎氏　その当時、町民や家族が最も望んでいた行方不明者の捜索支援のためにいち早く山田に入って来た岡田代表に対して、大変ありがたいというのが第一印象であった。

　その後の付き合いの中で、見かけは強そうだが、実際は繊細な心の持ち主と感じた。結果論からすれば、自分に人を見る目が無かったと言われても仕方ない。

問　岡田代表を評する言葉として「戦友」と言っているが、その真意はどういうことか。

沼崎氏　私は震災後２ヶ月間町長室に24時間詰めていて、その後７月末まで教職員住宅に寝泊りしながら、朝早くから夜遅くまで災害対策本部での、彼らの仕事ぶりを見ていた。

　災害対策本部の活動を通じ信頼を深め、自分自身と一緒に戦場の中にいたという感じであることから、戦友という言葉を使った。戦場の中で一緒に活動したという意味で、私から見れば一つのチームだということを表現したわけである。

問　代表を主幹から参与に委嘱した経緯の説明を。

沼崎氏　最初は物資センターの主幹をお願いしたが、内部で議論した際、主幹というのは、役場内部の役職であり部外の人に付けるのは誤解を招くということであった。参与なら部外者にお願いできる肩書きであることから委嘱した。

問　その後、参与から復興支援アドバイザーに変更したのはなぜか。

沼崎氏　議会の方から、参与でも役場の職員と見られる。委嘱をしている当事者に参与の肩書きはいかがなものかと指摘がありアドバイザーに変えた。

「御蔵の湯」なぜ造ったか

問　「御蔵の湯」を造った目的とその経緯について述べてほしい。

沼崎氏　７月中旬に自衛隊が撤退し仮設の風呂もなくなった時、避難所には仮設住宅に入れない町民がまだ残っていた。また、多くの住民から銭湯の要望が寄せられ、アイシン精機からも協力の話があり、組合せとして事業の形になった。

問　そうすると御蔵の湯は町で造ったということか。

沼崎氏　構想は町にあったが、町ではやれないので、その手法については、ＮＰＯと県と町で連絡を取り合いながら結局ＮＰＯでやることになったと思っている。

　その際、ＮＰＯの所有にはできないのでリースという形になる事と、運営上の経理面、この二つに不安を持った。しかし、いずれも県と協議済みであり、疑問点は解消し自分からはダメという事はなかった訳で決裁の印をついた。

問　では御蔵の湯はどこの所有物か。町の物ではないのか。

沼崎氏　県の了承を得ながらリースで建設して法人に運営してもらう。予算は県の基金を使うが事業主は町であり、御蔵の湯は町の運営である。しかし町の所有ではなく、どこの誰の所有かはいまだにわからない。

　ただ流れからすれば、リースが前提となり㈱カガヤが建設したので㈱カガヤの物で、リース会社がリースをすることになると思う。そうなっていないのであれば、そこにも問題があったのではないか。いずれ経過についてはわからない。

問　リース会社設立の経緯を把握していたか。

沼崎氏　リース会社の介在の必要性は先ほど述べた。しかし、どことリースを結び、そのリース会社がどういうところかということは私に報告は無い。今回の一連の報道で初めて知った。

　また、委託契約の中でリース料がいくらかというのは当然知っている。しかし、その先の、法人がどこのどういうリース会社と契約するかは、行政が関与できないシステムになっている。ただ実際に法人側から相談があったかどうかは把握しておらず、私はわからない。

　ぜひ理解してほしいことは、１５０人規模の緊急雇用が実現でき、一人でも多くの町民に給与をあげたいという思いが終始一貫してあった。私自身、担当者を含めて、少しでも可能性があれば人数を増やしたいという思いがあった。

　そこに、御蔵の湯の建設が出てきて、県の了解もある、企業からの支援も重なった。この機会を見逃す手はない、生かす手段はないかと考えた結果、リースで建設ができるということが丁度良い具合にマッチングすることができ、この事業がスタートしたということである。

補正予算の約束をしたか

問　岡田代表は平成23年12月10日の全員協議会の場で23年度予算ではＮＰＯの運営資金が足りないので、24年度に補正予算で計上すると、当時の副町長、総務課長と約束したと明言している。そのことと、23年度での予算不足の認識があったか。

沼崎氏　23年度は再三にわたって補正を計上し議決も行った。それ以上に不足があるとは考えられない。当時の副町長、総務課長との約束は全く聞いていない。

　23年度の予算不足についても、不足だから補正予算を組んできたのであって、その上で更に不足という理由がわからない。

法人の運営に問題点はなかったか

問　この法人の予算の使い方や運営の中で、何らかの問題点の指摘を受けなかったか。

沼崎氏　平成23年12月の全員協議会の中で議員からいくつかの疑問点の指摘をされた。御蔵山に建設している建物は何か。その運営は大丈夫か。北海道の研修旅行の中身は何か。大型トラック２台の存在について。高い賃金が町内の雇用を圧迫していないか。などであったと記憶している。それらについて１００％かどうかわからないが理解を得られ、予算の議決もあった。

　私に対してＮＰＯのいろいろな疑問だとか、そうしたものの指摘はそれだけであった。

　その後日常の仕事の中で町民からおかしいといった指摘はなく、退任するまで問題意識を持ったことはなかった。去年の年末の新聞報道に接するまで、全く知らないでいたというのが正直なところである。

問　平成23年５月２日に県の保健福祉部地域福祉課長ら関係者３人が山田町に来て、ボランティアセンターの運営について指導を行ったと聞いている。

　一つには当時の岡田代表の金遣いの荒さではなかったか。

沼崎氏　これについては第三者委員会でも聞かれ、新聞にも書かれているが若干の誤解がある。それは、「大雪りばぁねっと。」が県社協を通じて予算請求をするのはおかしいという指摘であった。

　ＮＰＯという立場は自分の金で活動するものであり、その辺の是正に来たものと理解している。

　山田町社協職員も被災している中、ＮＰＯ法人の協力は不可欠であることと、山田町社協を通じてお金が入るということになり一応の解決になった。

　あの時点で岡田代表の金遣いがどうだという話は無いというのが実態であった。

問　事業途中で、事業内容・経費などについて疑問点や不信感を持たなかったか。

沼崎氏　補正が何回か重なり、議員からもどうなのかと疑問や意見が出た。自分としても正常な状態ではないという認識はあったので、担当と何回もやり取りをしてチェックを行なった。

　その際に、「走り陣立て」的事業という経過を承知しており、一回目で正常な経費の計上が無理なので、やむなく補正を重ねていったという事であった。

　私とすれば、個別の個々のものまでチェックできず、担当からの報告を理解し決裁をした。また、県のチェックも受けているという安心感もあり、段階、段階で疑問点があっても、それをチェックしながら、わかったということで進めていったという認識である。

　23年度は補正が重なったという反省から、24年度の予算編成については後で補正がないようにという指示をした。

問　２年間で12億円以上の予算を使った委託先が破たんするまでわからなかった理由は何だと思うか。

沼崎氏　23年度の補正が重なって、１５０人規模の雇用が固定された。それが24年度は７億の規模で予算を組めたことから、当然、事業そのものはスムーズに動くものと安心感を持っていた。したがって退任までよもやこのような問題点が存在する、あるいは不正経理問題が起こることなど、全く予測できなかったというのが正直なところである。

問　前々総務課長や前総務課長に対し、町民はこの事業に大変疑問を持っていると、具体例を挙げて何とかしたらどうかと話してきた。そういう私たち議員や町民の忠告や声は届いていなかったということか。

沼崎氏　不祥事の温床とか問題があるということは一切聞いていない。ただ１５０人規模の緊急雇用をいつまでも続けて良いのかということは議員からも指摘が出ていた。

　商店や事業者が求人しても人が集まらない現状を改善するためにも、この事業の方向転換の必要性は頭に